

匠の街春日部かわら版

発行 ㈱コーワ
編集室：工房えびはら

「ぶらり散歩」-54- 杉戸宿に江戸の名残を探す

「宿場町」と聞くとどんな風景を思い浮かべるでしょうか。大名行列が行き交い、旅人たちが茶屋でひと休み、馬のいななきが聞こえる賑やかな町並み……。そんな江戸時代の風景を想像する方も多いでしょう。

春日部にも「粕壁宿」と呼ばれた宿場町がありました。お隣の杉戸町にも、かつて日光街道の宿場町として栄えた「杉戸宿」がありました。現在は静かな住宅地となつていますが、町を歩いてみると、江戸の面影が今もそこに残されています。

今回は、日光街道の歴史を感じながら「杉戸宿」に江戸の名残をぶらり探す「散歩」に出かけてみましょう。杉戸という名前には、かつての歴史。まず気になるのは、「杉戸」という地名です。実はこの地名にはいくつかの由来が伝えられています。

もっとも有力なのは、古利根川の渡し場という説です。かつてこの地は「杉津(すぎづ)」と「杉渡(すぎわた)」と呼ばれ、川を渡る重要な場所だったと考えられています。



ます。古利根川の渡船場として人や物が行き交い、その地名が変化して「杉戸」になったといわれています。また別の伝承もあります。

この付近には杉の太木が茂る港があり、水門を覆うように杉林が広がっていたため「杉門(すぎもん)」と呼ばれていたといわれています。

さらに、日本武尊が東国平定の途中にこの地へ立ち寄った際、老杉が立ち並び美しい港を見て名付けたといふ伝説まで残されています。どの説にも共通するのは、杉戸が古くから水辺の交通の要所であったということです。町の名前そのものが、この土地の歴史を物語っているのです。

古利根川とともに歩んだ町

杉戸町は古利根川左岸の自然堤防上に発達しました。現在の穏やかな風景からは想像しにくいかもしれませんが、かつて川は人々の生活を支える大切な交通路でした。物資は船で運ばれ、人々は渡し舟を利用して往来しました。古利根川沿いには荷揚げ場がつくられ、商人たちが集まり、町は少しずつ発展していったのです。川辺を歩いてみると、水面を渡る風が心地よく感じられます。江戸時代の旅人たちも同じ風を感じながら歩いていただけたかもしれません。歴史散歩の魅力は、遠い昔の人々と同じ景色を共有できることにあります。

日光街道第五の宿場「杉戸宿」

杉戸宿が誕生したのは江戸時代初期のことです。一六一六(元和二年)、江戸幕府によって日光街道に設けられた宿場の一つとされています。日本橋から数えて第五番目の宿場でした。日光街道は、江戸日本橋から日光東照宮まで続く約百四十

一キロの街道です。徳川家康を祀る東照宮へ向かう將軍や大名たちが利用したため、五街道の中でも重要な道のひとつでした。杉戸宿は、南の粕壁宿と北の幸手宿を結ぶ中継地点として発展しました。旅人たちはここで宿をとり、馬を乗り換え、食事をしみながら次の目的地へ向かったのです。

宿場の主役は「人馬の継ぎ」

宿場という旅館や茶屋を思い浮かべますが、実は最も重要な役割は「人馬の継ぎ」でした。これは、前の宿場から運ばれてきた荷物を、次の宿場へ送り届ける仕組みです。そのため宿場には「問屋場」といって、荷物が置かれ、人足や馬の手配が行われていました。杉戸宿では二十五人の人足と二十五頭の馬を常備することが定められていました。現代でいう物流センターのような役割です。もし宿場町がなければ、江戸と日光を結ぶ物流や通信は滞ってしまっただけでなく、幕府の交通網を支える大切な施設だったのです。

本陣と旅籠が並んだ賑わい

杉戸宿には本陣、脇本陣、旅籠が



ありました。本陣は大名や幕府役人が宿泊する特別な施設です。脇本陣はその補助施設。そして旅籠は一般の旅人たちが利用する宿でした。夕方になると、街道には旅人が集まり、茶屋には笑い声が響き、旅籠には明かりが灯ったことでしょう。

現在の静かな町並みからは想像できませんが、杉戸宿はかつて多くの人々で賑わった活気ある町だったのです。

江戸の知恵が残る「杵形」

杉戸宿を歩いてみると、道が直線ではなく曲がっている場所があります。これは偶然ではありません。宿場の出入り口には「杵形」と呼ばれる構造が設けられていました。敵が一気に攻め込めないよう、道を直角に曲がっているのです。城下町にも見られる防衛施設であり、江戸防衛の知恵が宿場にも取り入れられていました。今では何気なく通り過ぎてしまつ場所ですが、足を止めて見てみると、そこには江戸時代の緊張感が残っています。

広重と峯山が描いた杉戸の絶景

杉戸宿には、かつて多くの人を魅了した景勝地がありました。それが弁天池です。江戸時代の浮世絵師、歌川広重は日光街道の宿場を描いた作品の中で杉戸宿を取り上げ、弁天池を中心とした風景を描いています。また、蘭学者で画家でもあった渡辺華山も、一八三〇年に杉戸宿を訪れ、この景色を絵に残しました。

二人もの著名な絵師が筆をとったことから、この場所の美しさがうかがえます。きつと澄んだ水と豊かな緑が広がる、心癒される風景だったのでしょう。

渡辺勘左衛門家が支えた杉戸宿

杉戸宿を語るうえで欠かせないのが、渡辺勘左衛門家です。享保七年(一七二二)に杉戸へ移り住み、農業や質屋業を営みながら地域経済を支えてきました。明治時代には杉戸

銀行の設立に関わり、学校建設にも多額の寄付を行いました。

さらに歴代当主は副戸長や町長などを務め、地域発展のために尽力しました。宿場町の繁栄は、こうした地域のリーダーたちによって支えられていたのです。

宝性院に息づく人々の祈り

宿場の歴史とともに歩んできた寺院が宝性院です。創建は永禄三年(一五六〇)と伝えられています。ここには安産不動明王が祀られ、人々の信仰を集めてきました。

また寺子屋として教育を担ったり、戸籍管理を行ったり、旅人を受け入れたりと、寺院は地域社会の中心でもありました。境内には大きな馬頭観音が立っています。

日光街道随一ともいわれるその姿は、街道を行き交った馬たちへの供養の心を今に伝えています。

杵形に残る商家「角穀」

杉戸宿の面影を色濃く残す建物が「角穀(かくく)」です。かつて米穀問屋として栄えた商家で、杵形の角に建っていたことからその名が付けられました。古利根川を利用して米を運び、日本橋や門前仲町の商人たちと取引を行っていたそうです。

立派な蔵や太い梁には、当時の商人たちの繁栄が感じられます。残念ながら個人宅のため見学はできませんが、外観を見るだけでも杉戸宿の歴史を感じることが出来ます。



川湊の賑わいを伝える神社群



敵島神社、金刀比羅宮、稻荷神社が並び、かつて古利根川舟運の荷揚げ場でした。茶屋や料理屋が並び、多くの人で賑わったこと。当時の賑わいをしのぶ『古利根川流灯まつり』は終わりましたが、ぶらりしながらたくさんさんの灯籠を鑑賞することが出来ました。8月最初の土曜日曜に開催されるようなので来年も散歩したいと思っています。

杉戸宿を、ゆくり歩いてみると、道の曲がり方ひとつ、神社の石段ひとつ、古い商家の蔵ひとつに、江戸時代から続く物語が息づいています。古利根川の風に吹かれながら日光街道を歩くと、遠い昔の旅人たちの足音が聞こえてくるようです。「粕壁宿」から9キロ(徒歩1時間半程)で「杉戸宿」に到着です。杉戸宿は、今も変わらず、静かに訪れる人を迎えてくれています。

そして、ぶらりと歩くその先で、あなただけの「江戸の名残」にきっと出会えることでしょう。

紙面では書ききれないぶらり散歩の思い、江戸の名残を語り継ぎ歴史の風が吹く「杉戸宿」の歴史散歩を唄にしてみました。左上のQRコードで子エロの吟遊詩人の声をお聞きください。

(共栄大学客員教授 海老原武)

8月号 Vol.332
2026年8月20日 (木)

発行所：(株) コーワ
発行者：広地 進
制作・編集：工房えびはら
発行日：毎月20日発行

読者の広場

朝日新聞と森永牛乳を皆様の笑顔のために届ける情報誌

ASA 春日部

〒344-0055
春日部市八木崎町 1-19
☎ 0120-86-1637 FAX:048-761-0044
http://www.asa-kowa.com

コーワ春日部ミルクセンター

TEL:048-753-1800 FAX:048-761-3036



漢字ぐるぐるパズル◇リストの漢字を白マスに入れて、漢字しりとりを完成させてください。リストに残った四つの漢字でできる熟語が答えです。

正解者の方に抽選でプレゼント致します！
(希望商品を2つまで書いてください！)

- ①朝日新聞 天声人語書き写しノート 3名様
- ②森永絹ごしとうふ(常温保存可) 10名様
- ③森永充実野菜(常温保存可) 3名様
- ④森永まろやか黒酢(黒糖&りんご味) 3名様

しつかりと普通1丁ずつ

リスト
画工作実生地的馬名
温期合室水団直日变
縁気候事図代中動分
引光子心成値電風率

→秋		解	書			
	射	日	合		長	力
		校	行			発
	中	理	大	事	習	待
			曜	秋		気
	期	供			息	
				唱	試	退
	景		東	耳		品

難易度
★☆☆(初級)

答え

先月号の答えは『炭酸飲料』でした。

クイズ応募者44名
様で44名の方が正解でした。

→炎	天	下	半	期	待	感	情
化	粧	品	質	保	証	明	景
子	調	管	理	事	国	後	気
少	体	地	下	水	難	日	回
減	車	心	足	不	関	程	復
加	古	見	夢	正	校	表	元
湯	中	夜	真	写	校	念	記
足	不	手	人	界	業	事	仕

炭酸飲料

☆☆☆「漢字ぐるぐるパズル」クイズ解答応募先☆☆☆

ハガキかメールで「答え」、「住所・氏名」をご記入の上、コメントを添えてご応募ください。

〒344-0055 春日部市八木崎町1-19 (株)コーワ「漢字ぐるぐるパズル」係 メール otayori@asa-kowa.com まで
ハガキは8月28日消印有効、メールは8月末日到着有効(当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます)



ニンニクとエビのアビージョ

1人分335kcal 塩分0.8g ▶15分

●材料(2人分)

ニンニク.....4片
エビ(殻つき).....120g
オリーブ油.....1/2カップ
赤唐辛子.....2本
①パセリ(みじん切り)・・・大さじ2
塩、コショウ.....少々



【作り方】

- ①ニンニクは縦半分に切る。エビは殻をむかず、背に切り込みを入れ、背わたを取って水けをふく。
- ②小さめの鍋にオリーブ油とニンニクを入れて弱火にかけ、ニンニクに焼き色がついたらエビと赤唐辛子を加えて中火で炒め煮する。エビに火が通ったら①を加えて混ぜる。

料理・大庭英子 撮影・木村拓

当店ご購入者様へ

便利なWEB サービスを開始しました! WEBからお休みのご連絡や各種お申込みを受付けるサービスを開始しました。24時間365日ご利用いただけます。

【PC/スマホの方】 <https://www.asa-kowa.com>

☆携帯の方はこちら

【空メール: y@asa-kowa.com】

※件名、本文は必要ありません。

※受信制限をご利用の方は、「asa-kowa.com」からのメールを許可してください。



イラスト あやか

国勢調査からも見える共生社会

朝日新聞立川支局員 山浦 正敬



夏の甲子園は戦前から続く伝統行事です。全国大会を目指す高校球児は約12万4千人です。ただ、約17万人いた12年前をピークに減少が続きます。国内の少子化も一つの原因です。

5月に発表された昨年度の国勢調査の集計結果(速報)で総人口(外国人らを含む)がさらに減少したと新聞などが報じました。総人口は2015年調査から減少に転じています。

戦後の第1次ベビーブーム(1947〜49)で生まれた世代は80歳近くです。今、年代別で最多なのは、その子世代となる第2次ベビーブーム(71〜74年)で誕生した50代前半です。

都道府県別で見ると、5年前の前回調査から人口が増えたのは東京都と沖縄県だけ。市町村で最多の人口を抱える横浜市が減少に転じたのは驚きです。

38年余りの記者の仕事で、転勤で暮らした9都県を見ました。初任地の島根県は人口約63万人で、赴任中の90年調査から15万人減

です。東日本大震災の取材で駐在した岩手県は前回調査から7%台の減少率でした。大災害が人口減を加速させています。

日本の総人口は約1億2305万人です。ピークだった2010年からの15年間で約500万人の減少です。ただ、外国人だけ見ると逆に約200万人も増えています。

確かにコンビニや飲食店では多くの外国人店員が働いています。建築業や漁業の最前線もそうです。介護現場も同様です。

人口統計から世相が見えます。老いも若きも、国籍の区別なく、共生できる社会が求められます。

お便りコーナー



◆物価上昇につき自分で梅をつけてみました。梅雨明けの強い日差しの中さつこく干しました。まあまあの上出来上がりです。そうめん梅酢をいれるときさつぱりとたべられます。【大枝 S.T.さん】

◆7月は実母の三回忌法要。地元の霊園で御坊さんなしの身内家族だけで墓前供養、その後地元和風レストランで精進落として結構リースナブルで済みまして。で終わらせませんでした。なんと妻の実家長男が月はじめに急病入院中でしたが突然の呼吸不全で急死してしまいました。68才で私と同じ年齢。嫁さんと成人子供、93才父親を置いてばかりで先立つてしまいました。これから私達夫婦は沢山のサポートをしていきたいと誓い合いました。【緑町 T.T.さん】

◆昼間の暑さのよび方が、夏曰、真夏曰、猛暑曰、40℃以上が酷暑日と定義され、コースでも聞かれるようになりました。高齢者は、体感に頼らず、温度計をみて、早めに涼しい場所ですすむようにしています。【大沼 T.S.さん】

◆毎年この時期になると梅干しを作ります。母の分も作っているのですが母は塩分に気をつけなければならぬため塩分量を5%にしています。塩が少な分梅酢が上がり辛かったり、カビが生えやすかったりするので重石を重くして早く梅酢が上がるようにしています。【大沼 S.F.さん】

◆梅雨が明けてすぐ赤紫蘇に漬けた梅を2日間天日干しました。3日目の夜だけ梅を夜露に当てなければならぬのですが、天気が思わしくなかつたのでまだできていません。これから天気予報を見ながら今年の梅干し作りを終わらせたいと思います。【大沼 S.F.さん】

◆藤塚に住む孫一家が春から借農園を始めました。お裾分けを戴き美味しい新鮮野菜を食べてます。特に枝豆は甘くてビールつまみには最高でした。今朝も取り立てオクラが届きました。酷暑で世話も大変でしょうが、九十代のじじはばはの先も楽しみにしています。【備後東 S.S.さん】

◆春日部かわら版の記事は、私にとっても懐かしいものだった。不動産不動尊は、実家の近くにあり幼い頃からずとお参りをした所でもあり、多くの思い出のある場所だからだ。そして、ここで取り上げられた「黒門」は、今は亡き母から「黒門」について聞いたことを思い出し、とても感慨深く読ませていただいた。【谷原 K.I.さん】

◆この7月はテレビでのスポーツニ杯サッカー観戦で寝不足気味でした。スペインが優勝アルゼンチン、メッシは2位、3位イングランド最後まで夢中でみてしまいました。ネイマール、ロナウドは引退だぞです。知っている選手が引退していくのは、さみしいです。【粕壁 H.T.さん】

◆今まで住んだことのある都県の高校野球地方予選結果を毎日確認しています。卒業した高校は一回戦で敗れてしまった。昭和30年代初期に春の甲子園に出場したことはあるのですが、夏はまだ出場したことはない。毎年期待しているのですが、残念な結果に浸ることの繰り返しです。【豊町 T.T.さん】

◆市のプレミアム商品券の使用が始まった。QRコードを読み込ませたり、金額を入力したり、店員が目を確認したり。一連の手順に慣れも必要。お店のサポート態勢も是非お願いしたいと思った。【大沼 N.T.さん】

◆来る日も来る日も、とてつもない暑さで「地球の怒り」のようにも思えてなりません。秋も早くに来るとのこと。近頃の四季の無い、二期。これから、そんな年の繰り返しになるのでしょうか。【備後西 M.O.さん】